4　工事施工

（1）分水は標準施工図Ａ～図Ｈに従って施工すること。

（2）この標準施工図によりがたい場合は、その都度上下水道部と協議すること。

（3）水道以外の管との誤接合を行わないよう十分な調査をすること。

（4）分岐に当たっては、他の給水管の分岐位置から30cm以上離すこと。

また、維持管理を考慮して配水管等の継手端面からも50cm以上離すこと。

（5）異形管及び継手からの分岐及び、交差点内で仕切弁と仕切弁との間からは、分岐をしてはならないが、施工上問題がある場合、上下水道部と協議すること。

（6）サドル付分水栓は、垂直に取り付け、上取り出しを原則とする。

（7）ビニルチーズで取り出す場合、チーズは水平に取り付けること。

（8）分岐に当たっては配水管等の外面を十分に清掃し、サドル付分水栓等の取り付けボルトの締め付けが片締めにならないよう均等に締め付けること。

（9）穿孔機は確実に取り付け、その仕様に応じたドリル、カッターを使用しドレンを取り付け排水しながら行うこと。

ダクタイル鋳鉄管には、ダクタイル鋳鉄管モルタルライニングとダクタイル鋳鉄管エポキシ樹脂粉体塗装があり、ドリル及びカッターは、その仕様に応じたものを使用すること。

なお、どちらの管か判断ができない場合は、ダクタイル鋳鉄管エポキシ樹脂粉体塗装使用のドリル、カッターを使用すること。

磨耗したドリル及びカッターは、管のライニング材のめくれ、剥離等を生じやすいので使用してはならない。

また、ドレンにより切粉等を除去することにより、赤水等の防止をすること。

(10) 配水管等に穿孔する場合は、配水管等に施されている内面ライニング材、内面塗膜等の剥離が生じないよう注意すること。

(11) 鋳鉄管から分水する場合、分水口径がφ20～25㎜にときは、防食のために適切な防食コアを装着すること。

(12) 使用する資材に変形、キズ等が生じることのないよう、取り扱いには十分注意すること。

(13) 穿孔後は通水試験を実施して管内面の清掃を行うとともに、確実に穿孔されていることを確認しなければならない。

(14) 配水用ポリエチレン管については、配水用ポリエチレン管施工マニュアルにしたがって行うこと。

(15) 土壌による腐食からサドル分水栓を保護するために防食フィルムをサドルに取り付けること。

(16) 給水管をつぶして（圧縮）止水栓等を取替えた場合は、圧縮した部分を、ST ジョイント等で保護すること。

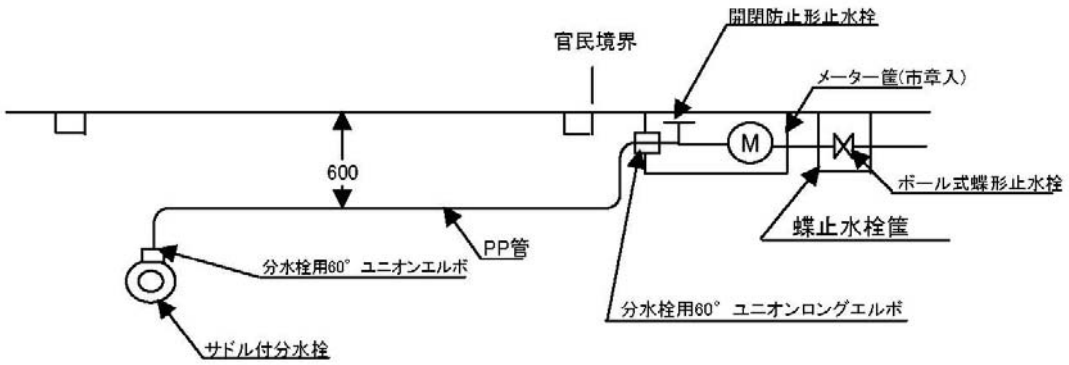
(17) 分水（撤去）工事を行う時は、工事日より 7 日前迄に分水（撤去）工事届を提出し、業務課職員の立会いのうえ施工することを原則とするが、都合上立会いができない場合は、分水（撤去）工事の写真をもって替えることとする。

　水道配水用ポリエチレン管より分水工事（接合(溶着)）を行う時は、工事届に施工する技能を有することを証明する書類を添付すること。

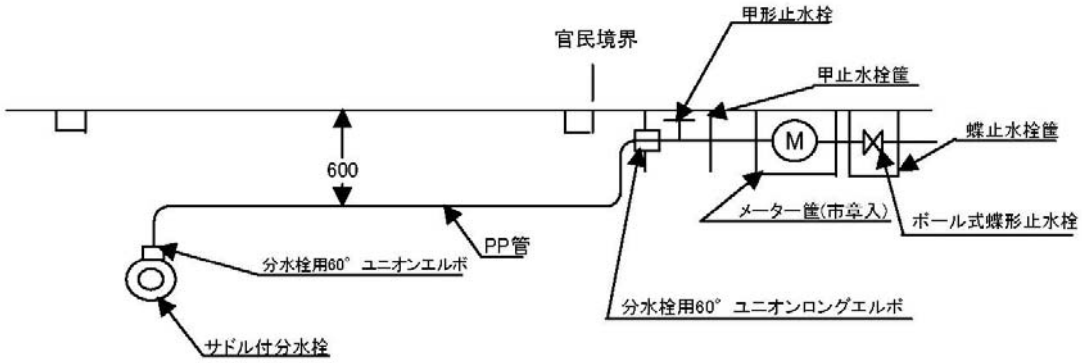
(18) 分水（撤去）工事完了後、遅滞なく分水（撤去）工事完了届に工事写真を添付して提出すること。

(19) 土、日曜日、祝休日の分水工事は、原則として認めない。

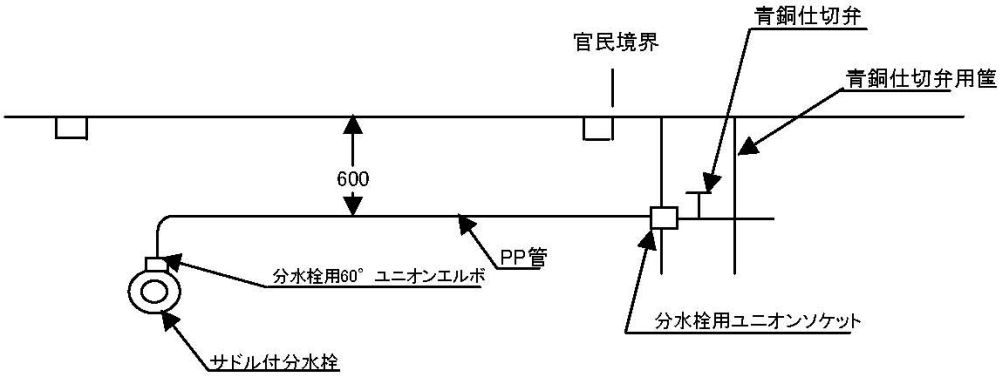
図－A 民地止水(分水口径φ20～25)



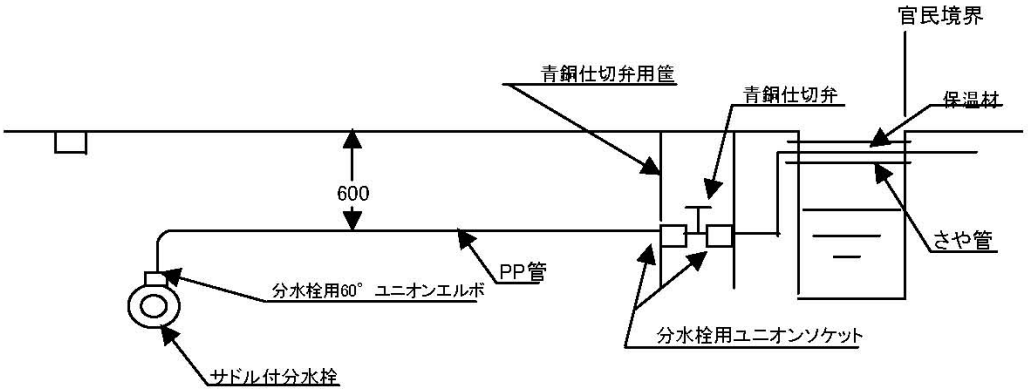

図－B 民地止水(分水口径φ40～50)



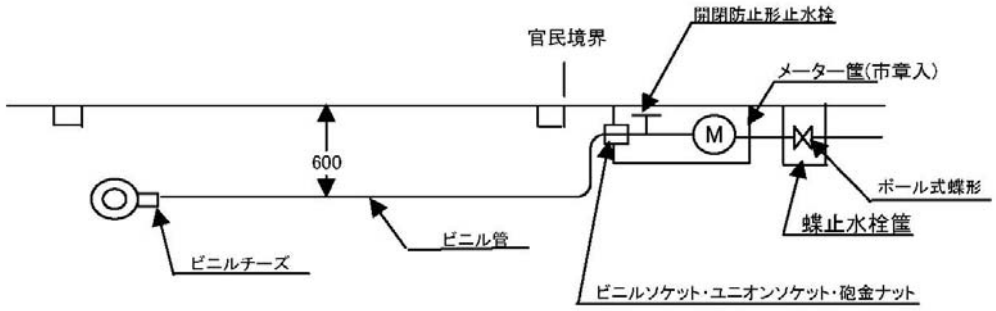
図－C　共同止水(分水口径φ40～50)



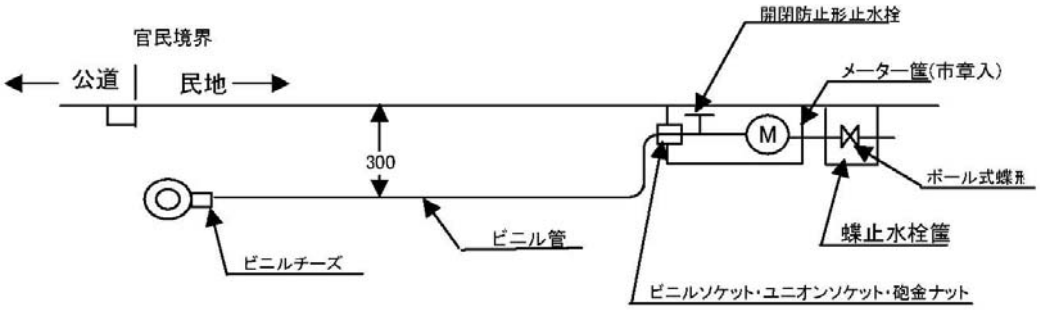

図－D　公道止水(分水口径φ40～50)



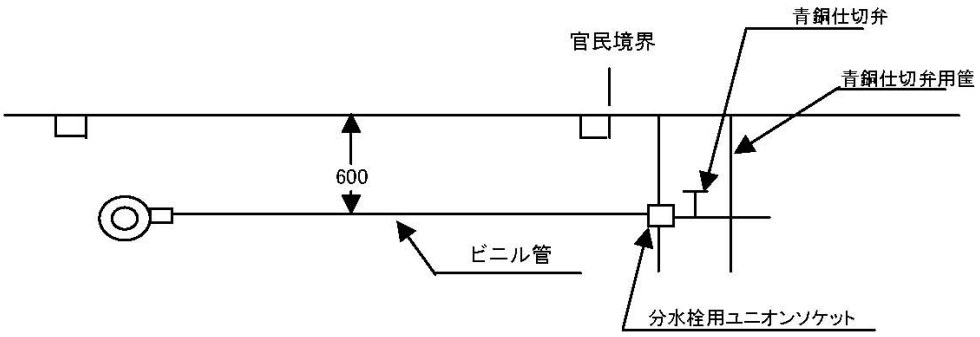
図－E 民地止水(分水口径φ20)
配水補助管φ25から分水の場合



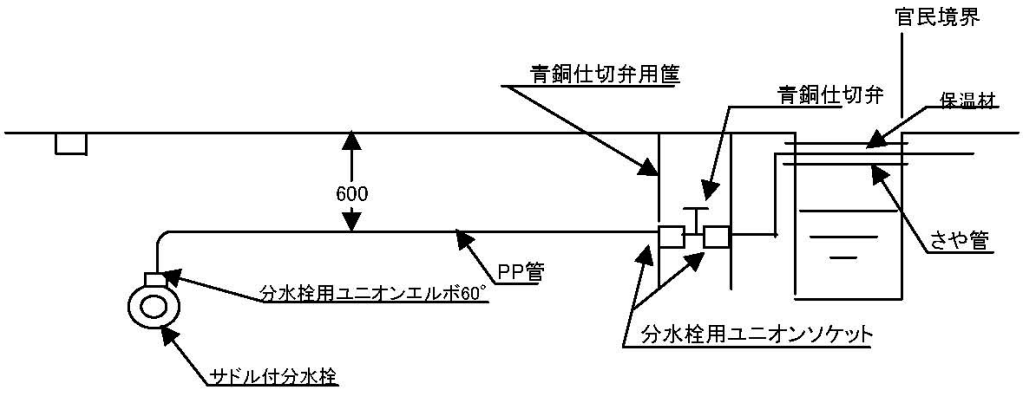

図－F 民地止水(分水口径φ20～25)
宅地内共同VP管から分水の場合



図－G 共同止水(分水口径φ40)配水補助管
φ50からの分水の場合

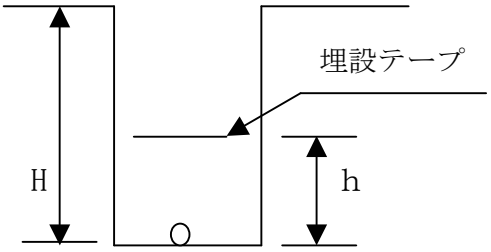



図－H 公道止水(分水口径φ20～25)
単独分水の場合



5　埋設テープ

（1）埋設テープは、管埋設の後、下図のように埋戻し、十分転圧を行った後、所定の土砂等を平坦に敷均し、テープをほぼ埋設管の中心線に沿って敷設し、テープが乱れないよう埋戻しを行わなければならない。




| | H | h |
|---|---|---|
| 市　道 | 600 ㎜ | 300 ㎜ |
| 県　道<br>国　道 | 600 ㎜ | 300 ㎜ |
| | 900 ㎜ | 450 ㎜ |

（2）埋設テープの文字等は下表のとおりとする。

| 名称 | 生地色 | 文字 | |
|---|---|---|---|
| | | 色 | 内容 |
| 埋設テープ | 青 | 白 | 水道管あり注意<br>春日井市上下水道部の立会いを求めて下さい。 |

6　標準土工図

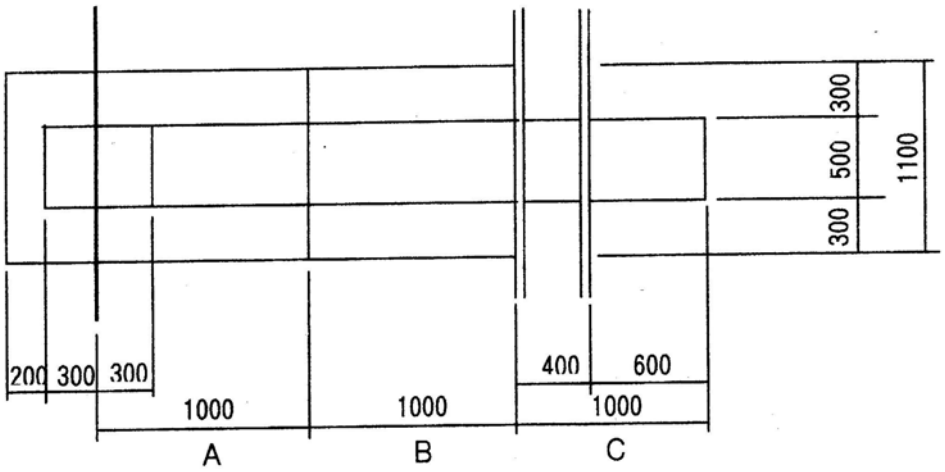
（1）標準土工は、図 7 －15～18 を標準とする。

（2）県道・国道については、占用許可条件に従って施工のこと。

図７－15

配水管分水土工標準定規図(民地止水)

平　面　図




掘削幅50cm・舗装復旧幅110cm

縦　断　面　図

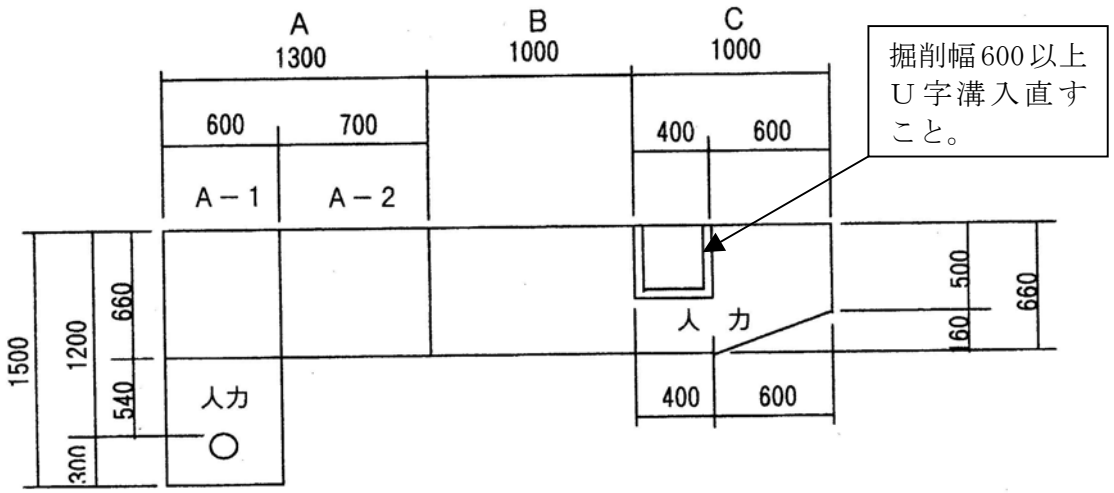
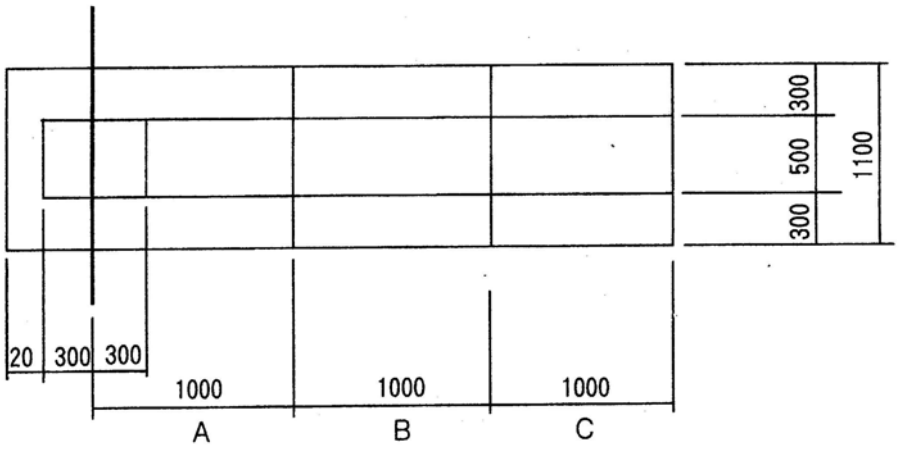


図７－16

配水管分水土工標準定規図(公道止水)

平　面　図




掘削幅50cm・舗装復旧幅110cm

縦　断　面　図

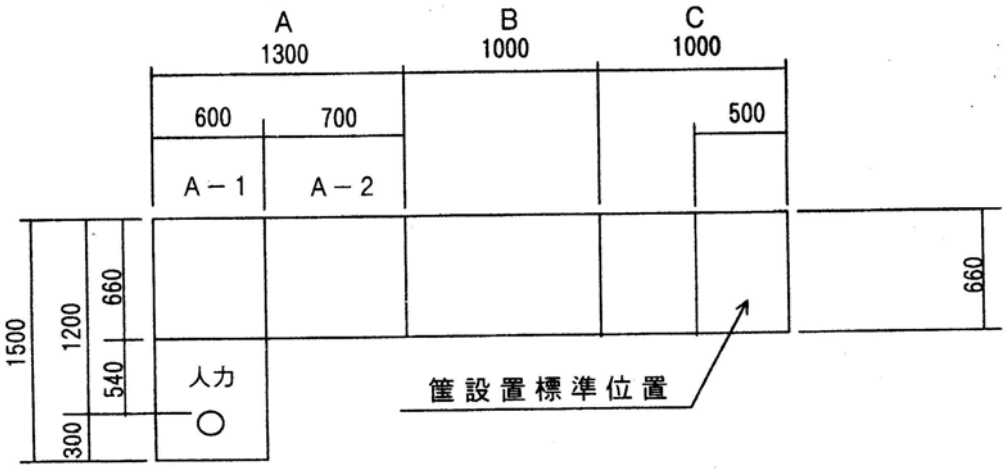
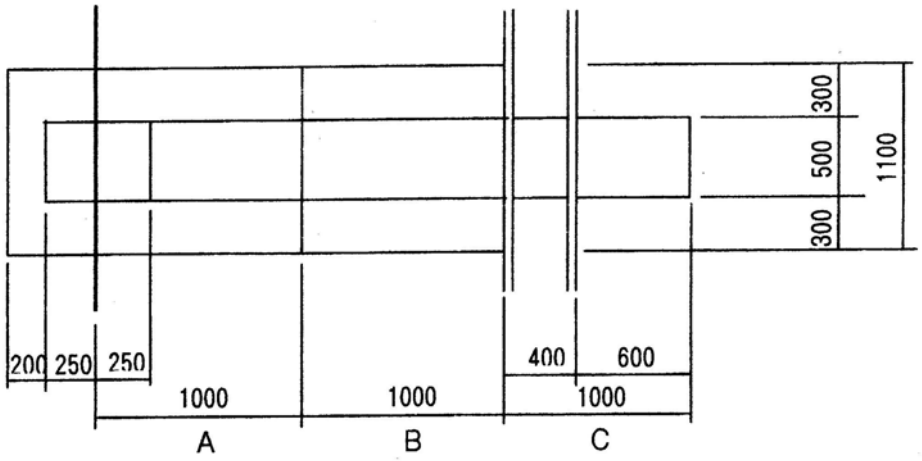


図７－17

## 配水補助管分水土工標準定規図(民地止水)

### 平　面　図




掘削幅50cm・舗装復旧幅110cm

### 縦　断　面　図

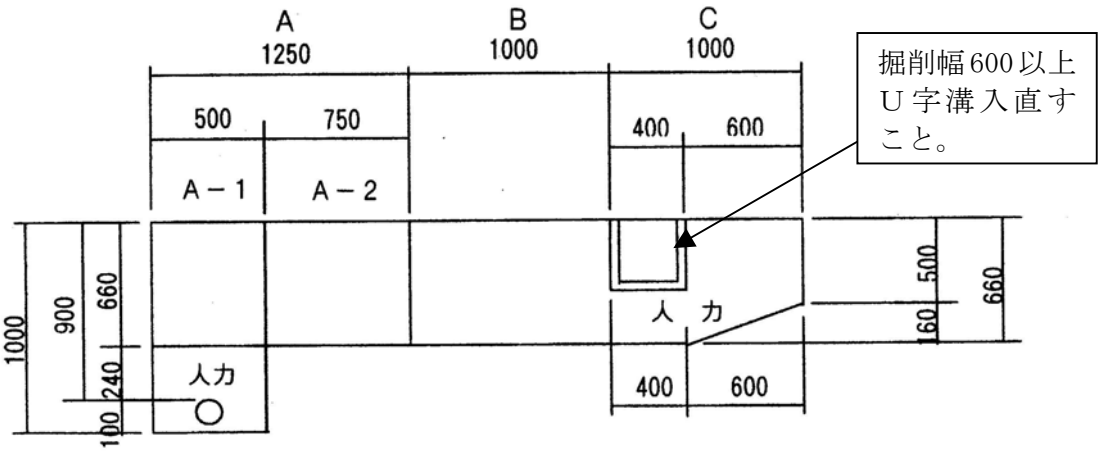
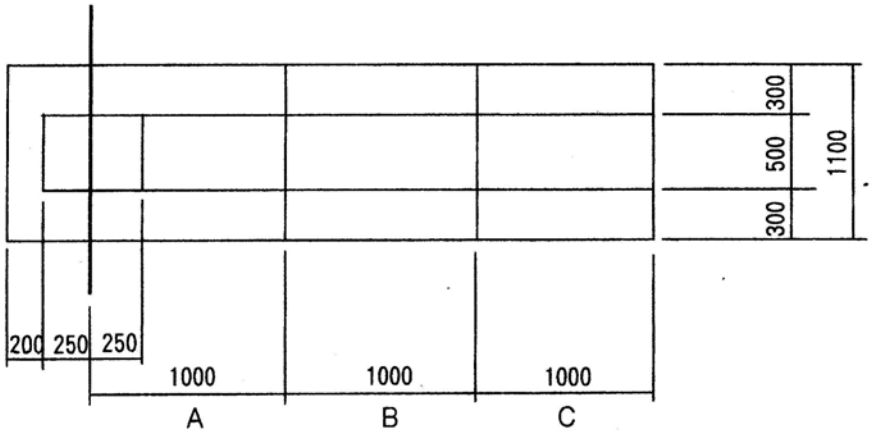


図７－18

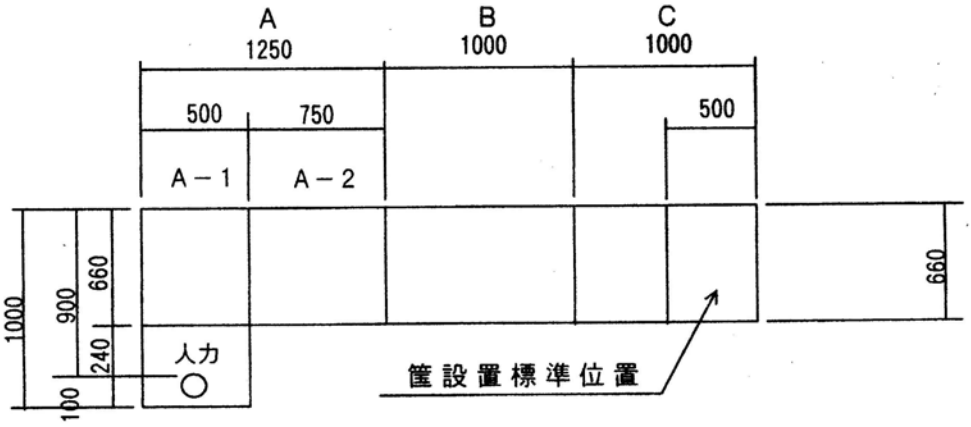
配水補助管分水土工標準定規図(公道止水)

平　面　図




掘削幅50cm・舗装復旧幅110cm

縦　断　面　図



7　掘削・埋戻

（1）掘削・埋戻の方法は、図７－19～21を標準とする。

（2）道路を使用する場合は、道路管理者、所轄警察署の道路占用許可、道路使用許可を得た後、その許可された条件及び指導事項を守って施工し、工事中は道路使用許可書を携帯すること。

（3）地下埋設物がある場合は、その位置を調査し着手の2日前までに、関係機関と連絡をとり、工事の立会いを依頼すること。

（4）工事着手の数日前までには、付近住民に工事内容を説明し、了解を得ておくこと。

（5）工事中は、交通安全に注意し、必要に応じて、ガードマン等を配置すること。

（6）可能な限り片側交互通行とし、道路幅員その他の事情により、やむを得ない場合に限り全面通行止めとすること。

（7）掘削･埋戻･締固･舗装切断等に使用する機械器具は、低騒音･低振動･低燃費の機種を使用して施工すること。

（8）舗装切断は、アスファルトカッター車を用いて切断し、必要以上に既設舗装面を傷つけないこと。

（9）掘削は、機械（バックホウ）を用いて施工（道路幅員等により機械施工が不可能な場合は人力）し床付以上に掘らないこと。

(10) 床付面は、不陸整正をすること。

(11) 埋戻は、山砂・再生砕石（RC－40）を使用し厚さ20cm以内ごとにタンパーを用いて転圧し、路面の安定を図ること。

(12) 舗装仮復旧は、再生密粒アスコンを用いて設計厚（通常3cm）を満たすようプレートで十分締固を行い通行に支障のないよう施工すること。

(13) 据削から埋戻・仮舗装まで一連の作業は、その日のうちに必ず行い、掘置きをしないこと。

(14) 仮舗装後本舗装までの間、道路陥没の有無確認のため、適宜現場をパトロールすること。

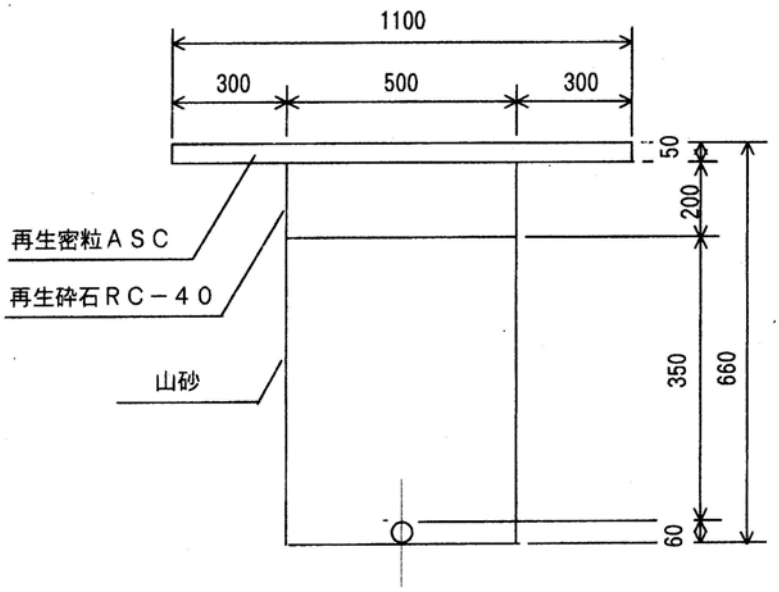
(15) 舗装本復旧は、再生密粒アスコンを使用し設計厚を満たすようローラーで十分転圧を行い、一般車両の通行に支障がないように施工すること。

(16) 工事の施工によって生じた建設発生土、建設廃棄物等の不要物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」その他の規定に基づき、工事施工者が責任をもって適正かつ速やかに処理すること。

(17) 県・国道については、道路占用許可図面に基づいて施工のこと。

図 7－19

舗装厚　5cm




舗装厚　１０cm

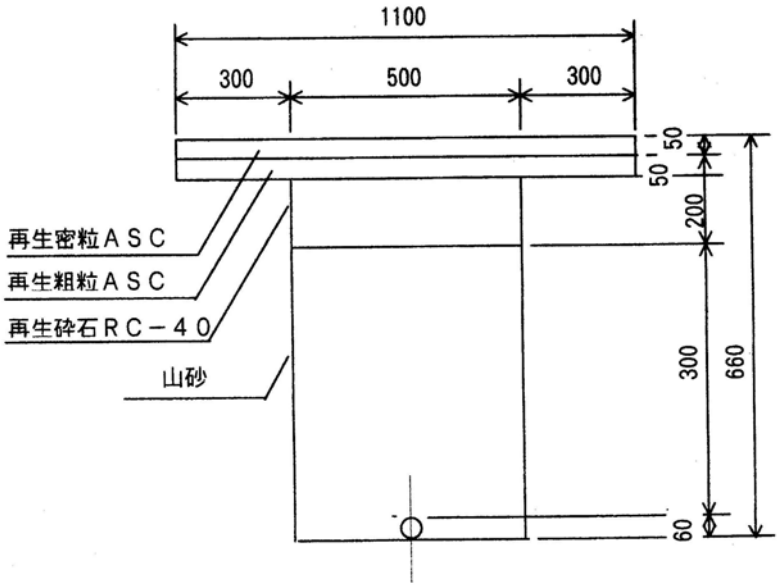
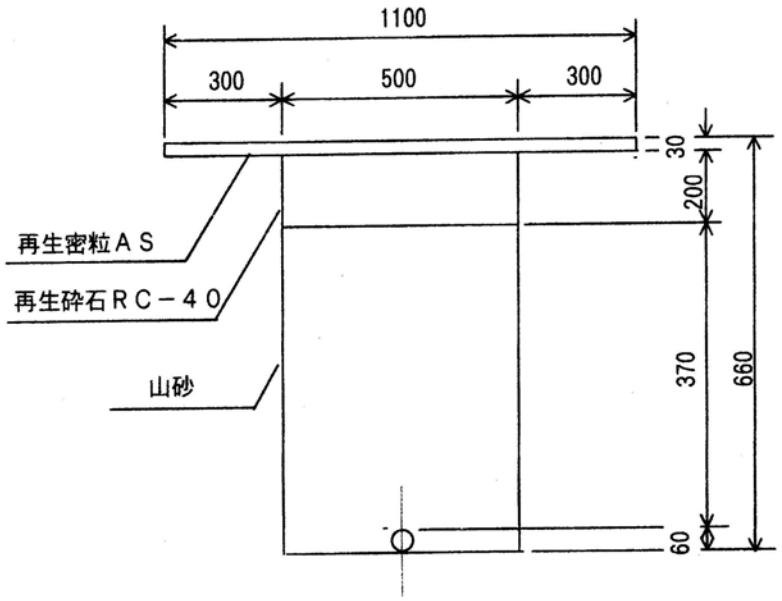


図７－20

舗装厚　３cm




未舗装・路床入替え

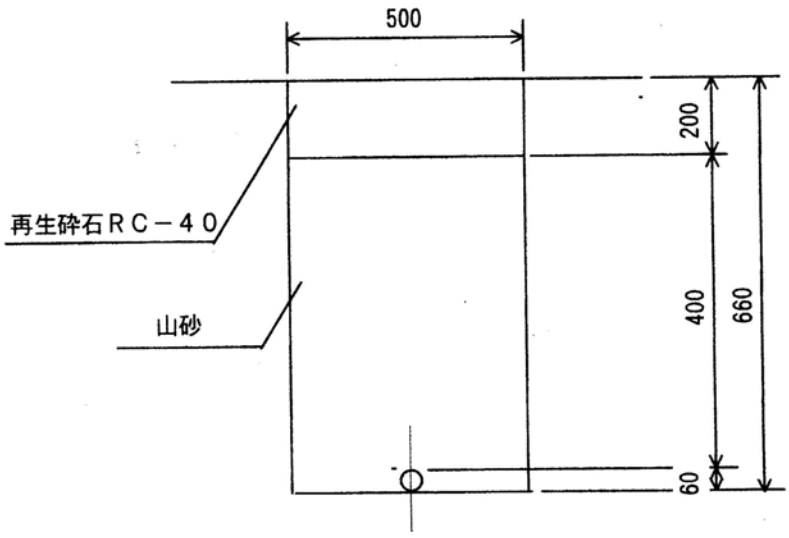
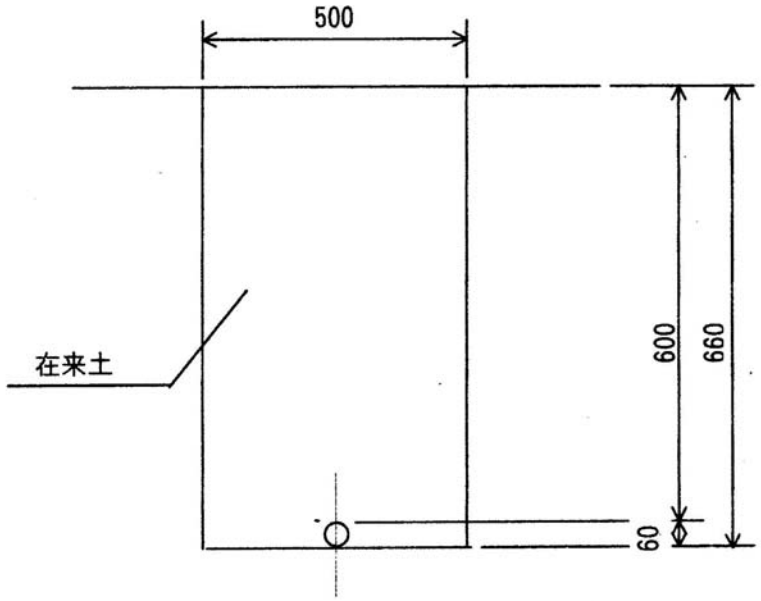


図７－21　未舗装・在来土埋戻し




８　保安設備等

（１）保安設備は、トラ柵、パネルフェンス、工事標識、案内標識、赤色灯等により安全を図ること。

（２）掘削深が1.5m以上の場合は、土留工をすること。

（３）交通整理のため旗等の合図により車両等の誘導を行うこと。

（４）歩行者等のため必要に応じて、歩板、覆工板等を設置すること。

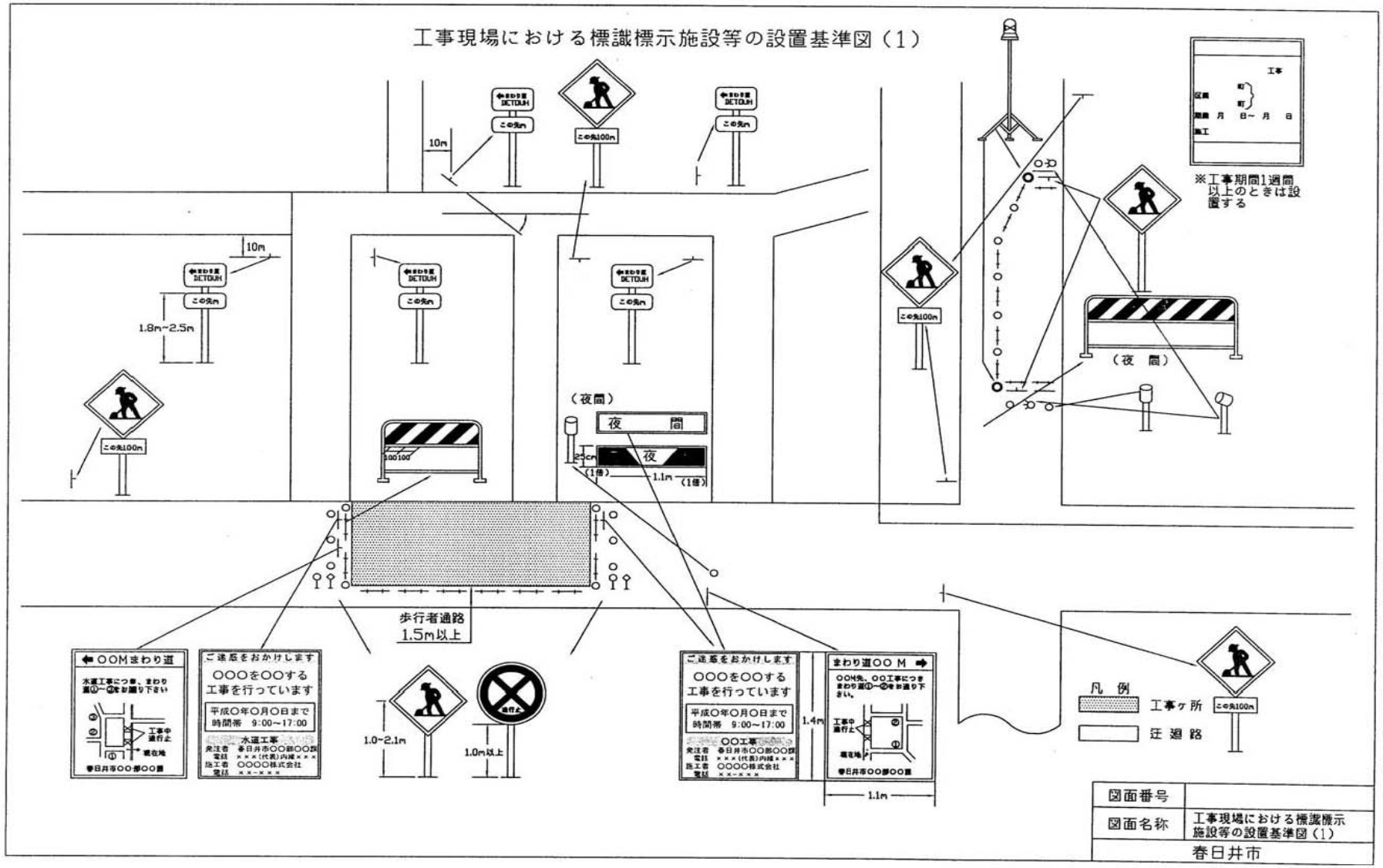
（５）標識板等は、破損又は不鮮明なものを使用しないこと。

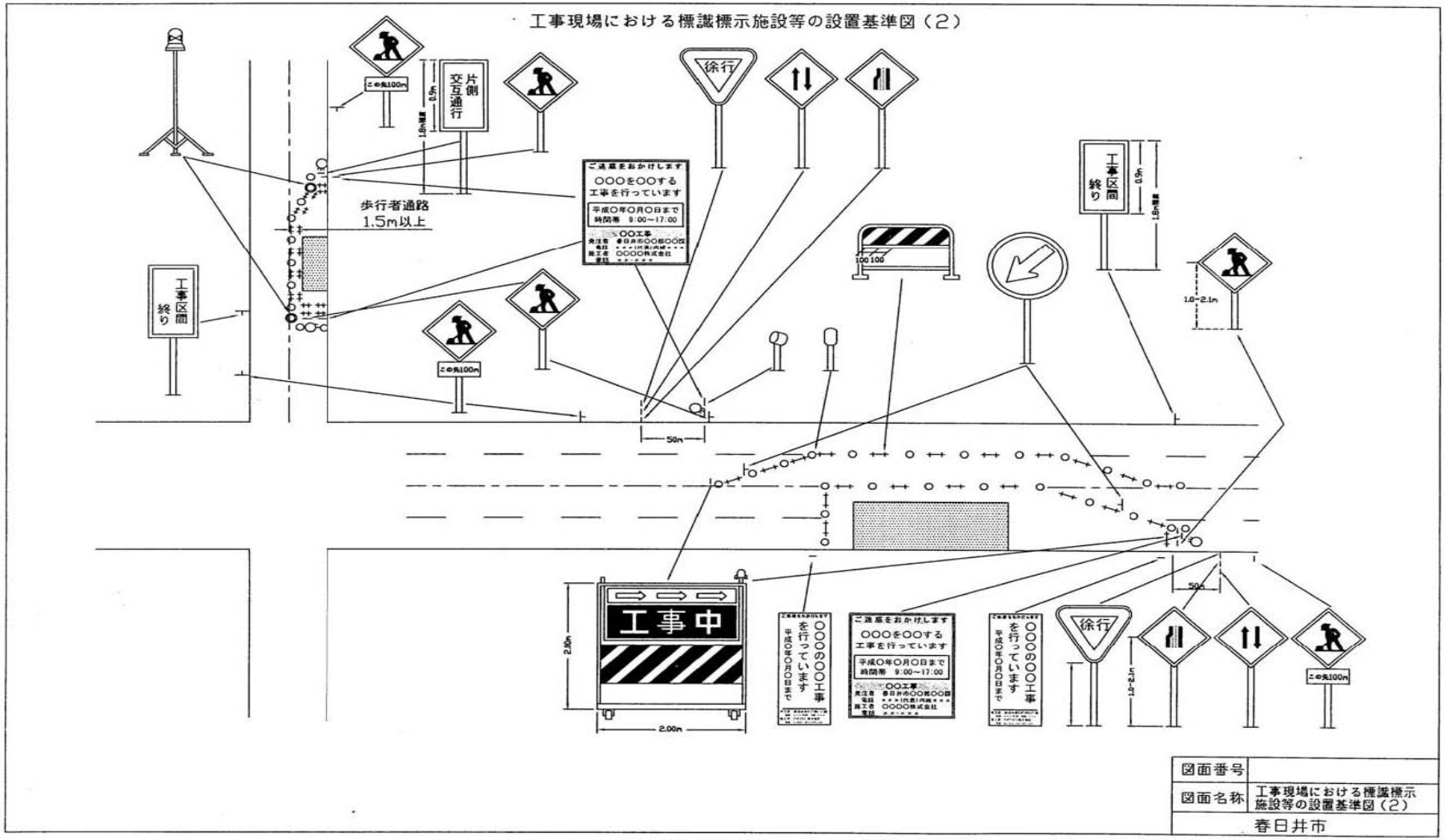
（６）設置した保安施設は、常に保守点検に務めること。

（７）工事現場は、常に整理整頓に務め、工事に使用する機械器具、資材などをみだりに路上に放置してないこと。

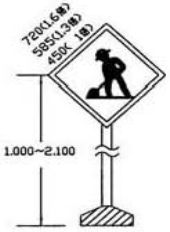
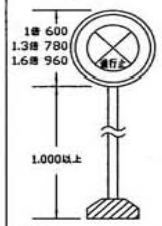
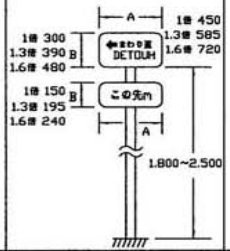
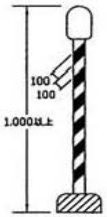
（８）工事箇所を交通の用に供する場合（埋戻跡、覆工箇所、工事中の路面）交通に危険のないようできるだけ段差、不陸のないようにすること。

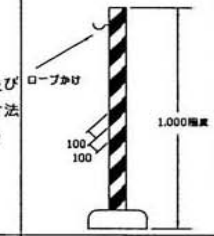
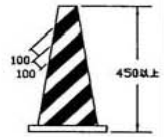
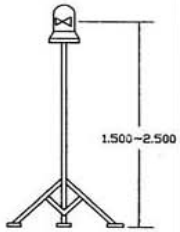
（９）作業上安全な服装及び保護具（ヘルメット等）を使用のこと。

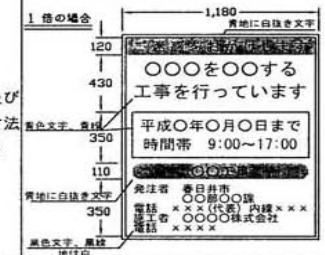
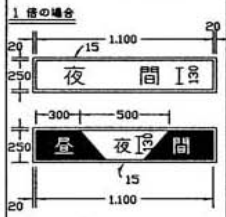

工事現場における標識標示施設等の設置基準図（1）
10m
1.8m~2.5m
この先100m
まわり道
DETOUR
この先
（夜間）
夜　間
25cm
1.1m
（1種）
歩行者通路
1.5m以上
1.0~2.1m
1.0m以上
1.4m
1.1m
※工事期間1週間以上のときは設置する
工事
区間
期間　月　日~　月　日
施工
凡例
工事ヶ所
迂回路
図面番号
図面名称
工事現場における標識標示施設等の設置基準図（1）
春日井市

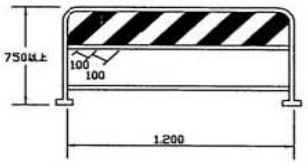
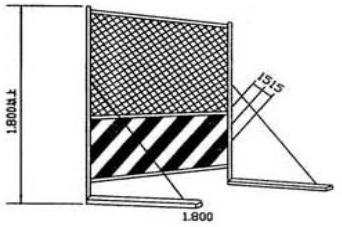

工事現場における標識標示施設等の設置基準図（2）
この先100m
片側交互通行
0.5m
1.5m以上
歩行者通路
1.5m以上
徐行
ご迷惑をおかけします
○○○を○○する
工事を行っています
平成○年○月○日まで
時間帯 9:00～17:00
○○工事
発注者 春日井市○○部○○課
電話 ***(代表)内線***
施工者 ○○○○株式会社
電話 ***-****
工事区間
終り
0.5m
1.5m以上
100 100
1.0～2.1m
50m
工事中
2.50m
2.00m
○○○○○工事
を行っています
平成○年○月○日まで
50m
1.0～2.1m
この先100m
図面番号
図面名称
工事現場における標識標示施設等の設置基準図（2）
春日井市

# 標識・柵等の規格

| 名称 | （213）標識 | （301）標識 | （120-A）標識 | 赤色灯 |
|---|---|---|---|---|
| 記号 | | | | ○ |
| 様式及び標準寸法(㎜) |  |  |  |  |
| 注 | 夜間全面反射とすること。 | 夜間全面反射とすること。 | 補助板も全面反射とする。 | 柱の黄色部分は夜間反射とする。 |

| 名称 | ロープ柵 | セフティ・コーン | 回転灯 | スポット型水銀灯 |
|---|---|---|---|---|
| 記号 | ～～～～～～～～～～ | | ◎ | ☆ |
| 様式及び標準寸法(㎜) |  |  |  | 高さは案内板に応じた高さとし、形状、寸法は任意とする。 |
| 注 | 黄色部は夜間反射シート貼付のこと。 | 黄色部は夜間反射シート貼付のこと。 | 回転部は黄色とする。<br>基部は任意。 | |

| 名称 | 工事案内板 | 工事案内板の補助板 | まわり道案内板 |
|---|---|---|---|
| 記号 | ― | | ⊐ |
| 様式及び標準寸法(㎜) |  |  | |
| 注 | 縁の余白2cm、縁線の太さは1cm、区間線の太さは0.5cmとする。 | 「昼夜間」のうち、「昼」「間」は白スコッチテープ、地は青色とし、「夜」は青色、地は白色スコッチテープとする。 | 「まわり道」は青色スコッチテープ矢印は赤色スコッチテープ、その他の文字および記号を青色、地を白色とする。縁の余白は2cm、縁線の太さは1cmとする。 |

| 名称 | トラ柵 | パネルフェンス |
|---|---|---|
| 記号 | ＞＜ | ― |
| 様式及び標準寸法(㎜) |  |  |
| 注 | 黄色部は夜間反射シート貼付けのこと。 | 黄色部は夜間反射シート貼付けのこと。 |

| | |
|---|---|
| 図面番号 | |
| 図面名称 | 標識・柵等の規格 |
| 春日井市 | |

9　止水栓の設置

（1）配水管等から分岐して最初に設置する止水栓の位置は、官民境界より民地側１ｍ以内の場所とすること。

（2）止水栓は、維持管理上支障がないよう、メーターます又は専用の筐内に収納すること。

（3）止水栓、メーター接続器具、逆止弁装置等から構成され台座等に取付け一体としたものでメーターの着脱が容易にできるものとしてメーターユニットがある。

メーターユニットを設置する場合は、春日井市型（メーター口径φ13㎜～φ20㎜）を使用すること。

（4）パイプシャフト内にメーターユニットを設置する場合、次のように設置すること。(以下メーターユニット以外にも準用する。)

ア　メーターユニットは原則として床面にアンカーボルト等により固定すること。

高さ調整が必要な場合、或いは床面に直接取り付けできない場合は架台等で確実に固定すること。

イ　メーターユニットはメーターが水平になるよう設置し、原則としてパイプシャフトの扉面と平行に設置すること。

防凍予防、メーター検針、取替等支障のないよう適当な離隔距離を確保すること。

ウ　給水主管からの分岐は、メーターユニットより高い位置かつ各戸それぞれ行うこと。

エ　メーターユニット前後の配管は、床、壁等に取り付けた支持金具等により固定すること。

オ　メーターユニットは、メーター口径にあったものを使用すること。(メーターがφ13㎜の場合、φ13㎜用のメーターユニットを使用)

カ　減圧弁を後付けする場合は、メーターユニット二次側に設置すること。

キ　メーターユニットの寸法・構造を確認し、取扱説明書にしたがって設置すること。

ク　漏水発見のため水勾配をつけること。

ケ　メーターユニット上部には物をのせない様、使用者等に周知・説明すること。

コ　図７－22をパイプシャフト内メーターユニット標準設置図とする。

サ　図７－23を３階建て直結直圧給水集合住宅のメーター標準設置図とする。

パイプシャフト内メーターユニット設置標準図

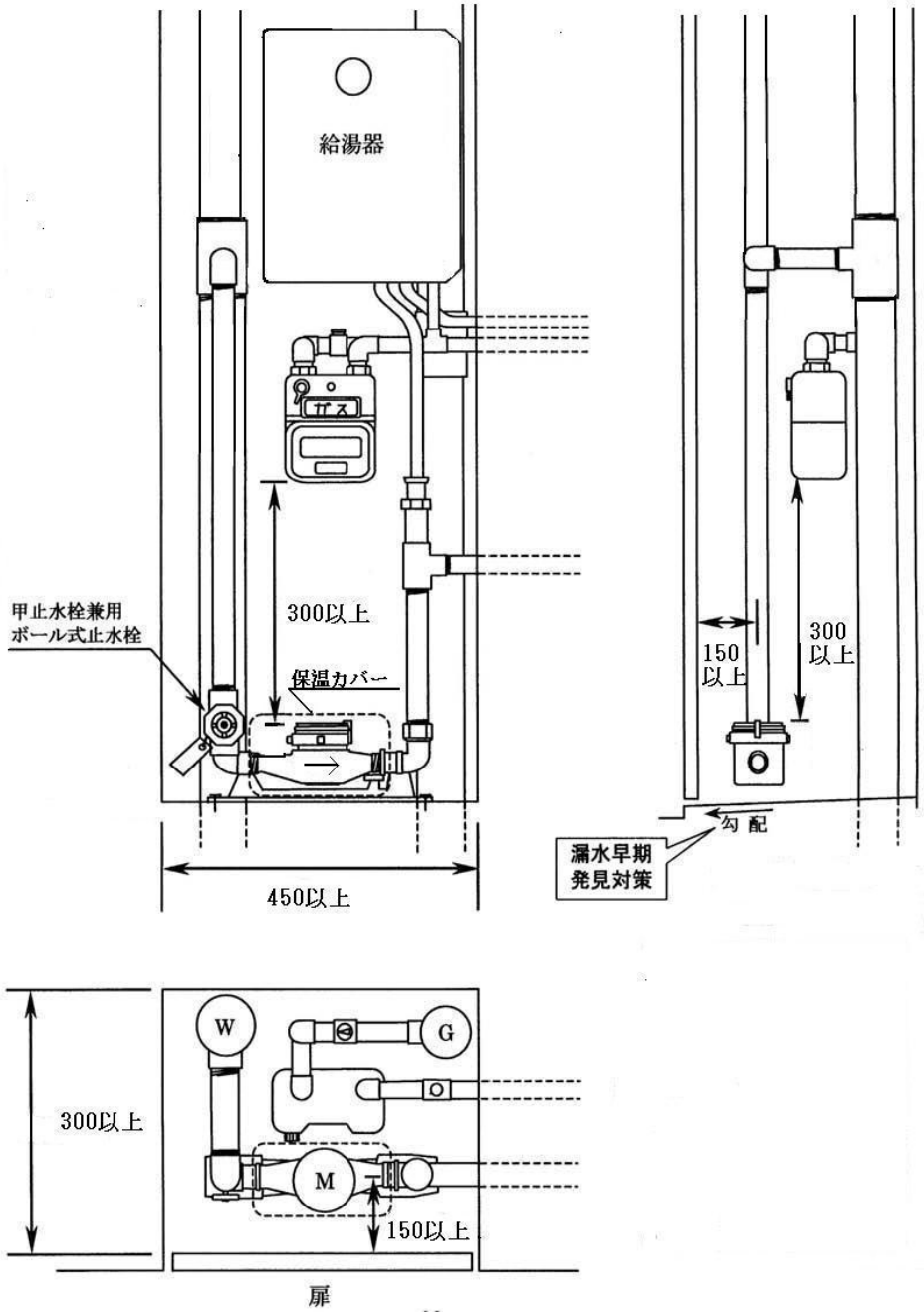



図７－22

3階建て直結直圧給水集合住宅
パイプシャフト内メーター標準設置図

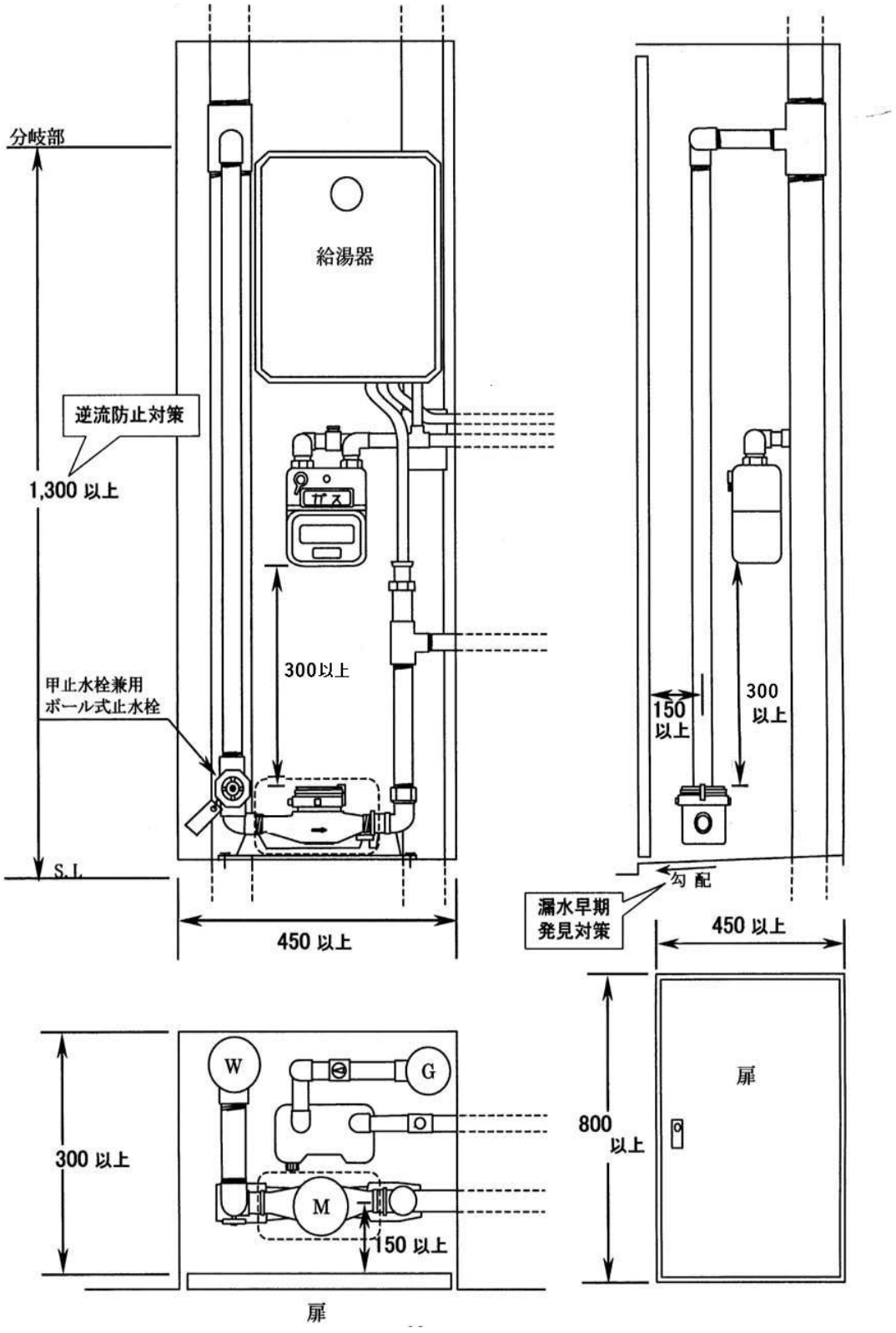



図 7 －23

１０　水道メーターの設置

（１）水道メーター（以下「メーター」という。）の設置位置は、原則として官民境界より民地側１ｍ前後の場所で、メーターの点検及び取替作業が容易でメーターの損傷、凍結等のおそれがない位置であること。

　メーターを官民境界より民地側１ｍ前後の場所に設置できない妥当な理由等がある場合に限りそれ以外の場所にも設置できることとするが、その場合、維持管理誓約書を提出すること。

（２）建物内にメーターを設置する場合は、凍結防止、取替作業スペースの確保、取付け高さ等について考慮すること。

（３）メーターの遠隔指示装置を設置する場合は、正確かつ効率的に検針でき、維持管理が容易なものとすること。

（４）メーターを地中に設置する場合は、鋳鉄製、プラスチック製、コンクリート製等のメーターます又はメーター室に入れること。

　また、メーター取外し時の戻り水による汚染の防止について考慮すること。

（５）メーターの設置にあたっては、メーターに表示されている流水方向の矢印を確認した上で水平に取り付けること。

　また、メーターの器種によっては、メーター前後に所定の直管部を確保するなど、計量に支障を生じないようにすること。

（６）集合住宅各戸検針（普通式(３階直結直圧給水を除く)）の場合、次のとおり設置すること。

ア　メーターユニット又は盗水防止型止水栓（春日井市型）及び蝶止水栓等を使用のどちらかを用いてパイプシャフト内に設置し、各戸の室内に設置しないこと。

イ　消火用水槽へ給水については、メーターは設置しない。

　ただし、消火用水槽一次側の給水管及び消火用水槽以降について、消火用以外への系統と接続しない場合に限る。

（７）多分岐配管のメーター設置順序

　集合住宅等、多分岐配管での専用メーターの設置場所及び順序については、原則として次のとおりとする。

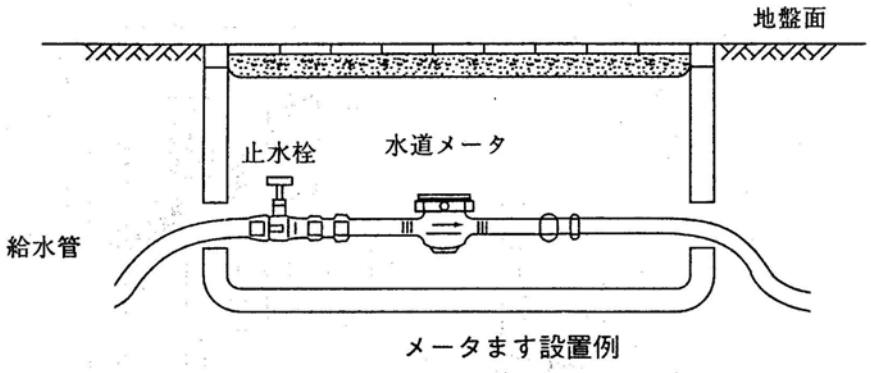
ア　公道近くにまとめてメーターを設置する場合は、部屋番号順、階数順に設置すること。

イ　部屋の入口付近にメーターを設置する場合は、建物に向かって、部屋番号、階数順に設置し個々の部屋の入口にあわせること。

　また、設置場所については、パイプシャフト内でも可とする。

ウ　メーター蓋の裏に部屋番号を油性マジック等で記入すること。

エ　メーター及び前後の配管はメーターボックス等で防護すること。



メータます設置例

１１　工事写真

（１）分水工事完了届提出時に下記工事写真を添付すること。

ア　分水箇所（サドル分水栓取付け、穿孔状況、コア打込、分水止）

イ　給水管引込状況（道路部分、第一止水栓前後）

ウ　洗管状況

エ　埋戻作業（管下・上の保護砂、タンパー等転圧状況、厚さが確認できるもの）

オ　埋設明示シート設置

カ　舗装復旧（仮復旧）

キ　安全対策（交通整理人、バリケード等）

ク　その他、既設管との接続及び切り離し部分等の状況に応じて必要とするもの。

（２）しゅん工届提出時、下記工事写真を添付すること。

ア　水圧テスト

イ　メーター（番号を確認できること）、メーターボックス設置(周辺)状況

ウ　舗装復旧（本復旧）

エ　安全対策（交通整理人、バリケード等）

オ　その他市が必要とする写真

（３）写真を撮影する際には、黒板等を用い写真説明するとともに、巻尺、スタッフ等で寸法や土被りを明確にすること。

分水本管の、出幅・深さを記録すること。（しゅん工時調書に記入する）

１２　宅内配管工事

（１）宅地内の配管は、取替え・修繕等を考慮してできるだけ直線配管とし、構造物の下を避けること。

やむを得ず構造物下を通過させる場合は、さや管方式や点検口・修理口を設ける等、給水管の交換を容易にする措置を講じること。

なお、埋設配管する場合は、上載荷重や凍結防止等を考慮して十分な深度を確保すること。

また、露出配管とする場合は、適切な防護・防食・保温等の措置を施すこと。

（２）減圧弁等を設ける場合、メーターの下流設置とすること。

１３　その他

（１）疑義等が生じた場合、その都度協議をすること。

# φ20量水器据付施行図（PP用）